

## オシドリ(カモ科) 全長45cm

福田俊司氏は、世界で最も歴史のある自然写真コンテスト「ワイルドワイフ・フォトグラファー・オブ・ザ・イヤー」の絶滅危惧部門特別大賞を受賞した、動物写真家です。

ロシアをフィールドに活動していた時に1羽のオシドリが飛び立ち、同行しているロシア人から、あれは「世界で一番美しい鳥だ」と言われ、オシドリへの見方が変わったそうです。

その後、福田氏は「鴛鴦(おしどり)・世界で最も美しいカモ」の写真集を出版。大自然のなかで、生き生きと暮らすオシドリの姿が紹介されています。



前から見ても、後ろから見ても鮮やかである。

日本では普通に生息するオシドリですが、世界で最も美しいと言われると「えっ、そうだったの」と、改めて見つめ直すことにした。

オスは何種類もの原色の羽を身にまとい、実に鮮やかである。(こんな派手な色で化粧しなくても、なんか野暮ったいな〜。などと勝手に解釈していたものですが……)



カモ類では珍しく、木の枝も休息場所です。



銀杏羽を立てスイスイと

オスの羽の色は 何種類あるのだろう。原色の赤、青、黄、橙、緑、茶などの他に中間色もあります。更に、太陽光線の差し込む角度によっては色合いが微妙に変わってくるので、とても正確には数えられません。



アップで眺めると、微妙な色の変化が現れました。



草むらを歩いてどこに向かうの？。

オスの腰の両側には、銀杏羽と呼ばれる黄色い羽が鮮やかに突き出ています。三列風切り羽の一枚が変化したものです。これほど鮮やかな羽の色を持っているカモは、他に当たりません。



メスが2羽。品のある美しさが漂います。



目を縁取る白いラインが後方に伸び、なかなか洒落ています。

メスはオスと比べるとかなり地味ではあるが、目の周りから後方へ延びる白い過眼線は美しく、全体をシックに引き締めています。

人が見る美しさの基準には個人差があり、オスもメスもそれぞれ評価が分れることでしょう。いずれにしても、こんな身近に世界一美しい野鳥が生息していると思うと、我が郷土はまんざらではないと明るく輝いてきました。



浅瀬から少し立ち上がった。



メスのアップ、やはり目がチャームポイントか。



仲良くお散歩、つがいでしょうか。